

哲學研究

第三十七卷 第三册

第四百二十五號

昭和二十九年七月二十日發行

史學研究會

ハイデッガーの根本經驗……………辻村公一

郭象の莊子解釋（完）……………福永光司
——主として「無」「無爲」「無名」について——

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究會を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八四〇圓、又は半年四二〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	石田仁	井島勉	上野照夫	臼井二尙	重澤俊郎	島芳夫	園原太郎	高田三郎	武内義範	田中美知太郎	長尾雅人	西谷啓治	野田又夫	松尾義海	三村勉	三宅剛一	矢田部達郎
-------	-----	-----	------	------	------	-----	------	------	------	--------	------	------	------	------	-----	------	-------

然し郭象が無心者として把握するその究竟的人間—聖人—の自然存在性を嚴しい主體的實踐に置きかへる時、我々はそこに唐末五代宋のシナ禪が必死に追求したあの究竟的人間—解脱者—の姿をそのまま見出す事が出来るのではなからうか。「日は好日」といひ、「不思善惡」といひ、「即心即佛」といふその究竟者の境地は、そのまま郭象における究竟者—無心者—の境地でもあつた。郭象はそれをただ自然として捉へてゐたのである。そしてこの「自然」が人間の高く嚴しい主體性において超克されるためには彼以後數百年のシナ思想史が必要であつた。郭象の思想はこの點においてもまた看過すべからざる思想史的意義を擔つてゐるのである。

(完)

註(一) この點に就いては拙稿「僧肇と老莊思想—郭象と僧肇—」(京大人文科學研究所編「肇論の研究」所收)の論述参照。

—一九五三・四・二〇稿—五四・三・五改稿—

(筆者 大阪府立北野高等學校教諭)

前 號 目 次

高さ、大きさ、深さの論理……………植田 壽藏

デカルトの自由論(完)……………瀧浦 靜雄

郭象の莊子解釋……………福永 光司

——主として「註」無意「無在」について——

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年八四〇圓又は半年四二〇圓）をお拂下下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は帶封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂下下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外的一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和二十九年七月十五日印刷
昭和二十九年七月二十日發行

編集人

京 都 哲 學 會
京 都 大 學 文 學 部 内

右代表者

發行人

三 村 勉
八 坂 淺 太 郎
東 京 都 千 代 田 神 田 澗 河 原 四 ノ 四

印刷人

伊 藤 久 春
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

印刷所

弘 文 堂 印 刷 所
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

發行所

株 式 會 社
弘 文 堂
東 京 都 千 代 田 神 田 澗 河 原 四 ノ 四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申下下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價七十圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVII

July, 1954

No. 3

*The Fundamental Experience of
Heidegger's Philosophical Thinking*.....Kôichi Tsujimura

On kuo-Hsiang's Interpretation of Chuangtzu :
especially concerning "Wu", "Wu wei"
and "Wu ming" (II).....Mitsuji Fukunaga

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

昭和二十九年七月二十五日
發行(每月一
行)

定價
金七〇圓